

1 仮定法の基本

1. もし彼の住所を知っていれば、私は彼に手紙を書けるのだが。

- * 現在の事実に反する(またはその可能性が低い)と話し手が考える仮定と、それに対する帰結は、仮定法過去によって表す。その基本形は以下の通り。

$$\text{If} + \text{S} + \text{動詞の過去形} \dots, \text{S}' + \left\{ \begin{array}{l} \text{助動詞の過去形} \\ (\text{would} / \text{could} / \text{might}) \end{array} \right\} + \text{原形} \sim.$$

「(今)もしSが…するなら、(今)S'は～するだろう(に)」

* if節中での be動詞は人称に関わらず were を用いることが多い。

2. もし彼が UFO を見たならば、私にそのことについて話していただろう。

- * 過去の事実に反する(またはその可能性が低い)と話し手が考える仮定と、それに対する帰結は、仮定法過去完了によって表す。その基本形は以下の通り。

$$\text{If} + \text{S} + \text{動詞の過去完了形} (\text{had done}) \dots,$$

$$\text{S}' + \left\{ \begin{array}{l} \text{助動詞の過去形} \\ (\text{would} / \text{could} / \text{might}) \end{array} \right\} + \text{have done} \sim.$$

「(あのとき)もしSが…したなら、(あのとき)S'は～しただろう(に)」

3. もし私があの時あなたの助言に従っていたら、今もっと幸せでしように。

- * 仮定法過去完了と仮定法過去が併用されることがある。
- * 本例文では、if節は過去の事実の反対を想定しているため仮定法過去完了に、主節はそれに基づく現在の状況を想定しているため、仮定法過去になっている。